

琵琶湖博物館 フィールドレポーター2019 年度第 1 回調査  
夏のセミの調査

◎目的

今回のフィールドレポーター調査は、夏に子供やお孫さんと一緒にできるセミの調査です。セミは昆虫類の中では大型で鳴き声や姿形で種類の見分けがしやすく、特に夏の時期に集中して羽化する数種類のセミは見つけるのも簡単です。

一見どこにでもいそうなセミですが、実は環境によって増えたり姿を消したりと、種類によって好む環境に違いがあります。フィールドレポーターによるセミの調査は、2004 年度に第 1 回目の調査、2005 年度に第 2 回目の調査を行い、クマゼミが滋賀県内の多くの場所で確認されていることが分かりました。近年、市街地にも広く生息していたアブラゼミやニイニゼミ、ツクツクボウシが、都市化の影響で一部の地域では減少していると言われていました。14 年経過した現在、滋賀県内のセミの分布状況に変化はあるのでしょうか。セミを調べることによって、都市化や温暖化など、身近な環境の変化を知るきっかけになればと考えています。

今回の調査では、レポーターの皆さんの身近なところで見つけたセミの成虫や鳴き声、抜け殻を調べていただき、セミの種類と環境との関係について考えてみたいと思います。

◎調査方法

(1)調査票

調査票は1種類です。調査日、場所ごとに1枚の調査票に記入して下さい。調査の感想や自由記述は1枚だけ記載して頂いても良いですし、調査日や場所についての感想がありましたら、その都度記載して頂いても良いです。同封した返信用封筒を利用して送って下さい。標本は後述の方法で別途送付をお願いします。

(2)セミの抜け殻の採取の仕方

種類を調べるために、特に触角と前脚は重要です。この部分が壊れていない物を探して下さい。壊れないように丁寧に取り扱いして下さい。

(3)標本の送り方

抜け殻だけを採取して送って下さい。同じ場所で同じ種類は1個だけにして下さい。くれぐれも成虫や成虫の死骸は送ることの無いようにお願いします。お菓子の箱や厚紙などを工夫した入れ物にティッシュペーパーなどで抜け殻を軟らかく包んで入れて下さい。入れ物や抜け殻の包装にはデータ(氏名、該当する調査票の連番、採取日、分かればセミの種類)を記載して下さい。

① 琵琶湖博物館に直接持参して頂く場合は、担当の松岡学芸員か八尋学芸員(博物館代表電話番号:077-568-4811)に連絡してください。

② 郵便局や配達業者に依頼する場合は費用のご負担をおかけします。ご協力お願い申し上げます。

送り先 琵琶湖博物館フィールドレポーター担当 松岡学芸員  
〒525-0001 草津市下物町 1091 番地

◎調査期間

2019 年 6 月末(調査票が届いた日)～2019 年 9 月 30 日

◎参考資料

- ・2005 年度 第 2 回フィールドレポーター「夏のセミ調査-2」2005 年度フィールドレポーター便り第 2 号  
[https://www.biwahaku.jp/uploads/2005\\_2nd\\_report.pdf](https://www.biwahaku.jp/uploads/2005_2nd_report.pdf)
- ・2004 年度 第 1 回フィールドレポーター「夏のセミ調査」2004 年度フィールドレポーター便り第 1 号  
[https://www.biwahaku.jp/uploads/2004\\_1st\\_report.pdf](https://www.biwahaku.jp/uploads/2004_1st_report.pdf)
- ・セミの鳴き声  
「おおさかのセミのみわけ方」大阪市立自然史博物館ホームページ  
<http://www2.mus-nh.city.osaka.jp/learning/ent/semi/song.html>
- ・林正美・税所康正(2011)日本産セミ科図鑑. 誠文堂新光社. 223P